

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西城陽高等学校 】

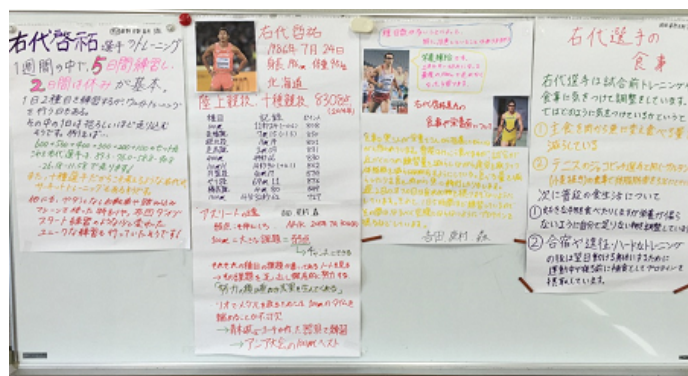
| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 V 】 |
| 2 実施対象者 | 京都府立西城陽高等学校 スポーツ総合専攻コース 1・2・3年生 124名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (O 専攻スポーツ) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | トップアスリートの講演を通じて、オリンピック・パラリンピック・国際大会への関心や競技力の向上を図り、2020年以降のスポーツ文化の広がりにも貢献する人材の育成を目指す。 |
| 5 取組内容 | <p>(1) オリンピアンについて</p> <p>① 事前学習 9月29日(金)～10月5日(木)</p> <p>ア 調べ学習</p> <p>(ア) 十種競技の歴史</p> <p>(イ) 日本記録保持者 右代啓祐選手について</p> |

事前学習として、スポーツ総合専攻コース全生徒に、「十種競技および右代選手について」をテーマに調べ学習を行った。

今まで、右代選手や十種競技について知らなかった生徒も多数いたが、調べることによって関心を持つようになった。

イ ポスターセッション

(ア) 右代選手についての発表会 10月19日(木)



全体で内容を共有し、深めていくために、各自で調べてきたことをグループ形式になり、発表会を行った。

(2) オリンピアンによる講演会・実技指導

日時 平成29年10月27日(金) 13:25~15:25

講師 右代 啓祐 選手(スズキ浜松アスリートクラブ)

講師の主な競技実績

- ・現 十種競技日本記録保持者(8308点)
- ・オリンピック日本代表 2大会出場
(12年 ロンドン、16年 リオデジャネイロ)
- ・2014年 アジア大会(韓国・仁川) 金メダル
- ・日本選手権6連覇

内容 オリンピックの経験や夢
目標の持ち方
挫折とそこからのリスタート
人との出会い
高校生からの質疑

①パネルディスカッション 13:25~14:15



パネルディスカッション形式で行った。様々な経験談や指導者からかけられた印象に残っている言葉、今後の目標などを高校生に熱く語ってくれた貴重な時間であった。

②トレーニング紹介・実演 14:25~15:25



右代選手が日頃行っているトレーニングを紹介してもらい、全員で実施した。

(3) 事後学習

①感想・考察レポート提出 10月30日(月)

6 主な成果

(1) 日本記録保持者への興味と憧れ

陸上競技専攻以外の生徒にとっては、右代選手のことだけでなく十種競技についても知らない生徒が大半を占めていた。そのため、右代選手が来校されることを生徒に伝え、事前学習として調べ学習やポスターセッションを行わせた。それにより、生徒達はキングオブアスリートと呼ばれるこの種目の醍醐味、そして現役選手であり、かつ日本記録保持者である右代選手に対し、とても興味を抱くことができた。

講演会当日、右代選手が会場に姿を現すと、生徒達は生で初めて見る右代選手の出で立ちとオーラに圧倒された様子であった。しかし、パネルディスカッション形式で話を進めて行く中で、右代選手の人柄や皆に語りかけるような優しい口調に、緊張がほぐれ、話を熱心に聞く姿が見られた。後半は実技指導が行われたが、初めて行うトレーニングに興味を持ったり、右代選手が行う力強い見本に感嘆の声をあげたりするなど、皆が意欲的に取り組む姿勢が見られた。右代選手の基本を忠実に、一つ一つ動きを無駄にせず、丁寧に言うところや、高校生を圧倒する力感に、「これが十種競技の選手であり、日本記録保持者なのか」と驚くとともに、自分も右代選手のようになりたいとすべての生徒が思い、強い憧れを持つようになった。高校生にとって日々継続してモチベーションを高く保つのは難しいが、今回の出会いによって、自分達が目指すべき選手像や目標を明確にすることができたと考えられる。

(2) 生徒の意識の変化

右代選手の話の中に、生徒にとって印象に残る言葉が多くあり、その言葉を聞いて生徒達の意識が変化していくのが感じ取れた。特に生徒達が感銘を受けていた話に共通していたのは、「前向きに考える」という言葉であった。右代選手は優勝すれば初めて世界大会に出場できる大会で7種目時点トップに立っていたのにも関わらず、勝てば世界と思いきや次で失敗した経験があり、その時の話として

| | |
|----------------------------------|--|
| | <p>「失敗をし、優勝を逃す要因となった結果を報告しに行った時、当然怒られることを想定していたが、恩師からかけられた言葉は意外にも『今日の試合は失敗ではない。今日の試合がスタートだ』と言われ、前向きになれ、負けた要因を理解して次につなげようと思えた。」という内容を紹介された。また、オリンピック1ヶ月前、練習中に全治3ヶ月の怪我をされた時も、「怪我をして落ち込んでいる暇があれば、治療に専念し、次のことを考える。病は気からではないが、前向きに考えるのがとても大切。」と生徒達に語りかけるように話をしてくれた。生徒達にも過去に少なからず失敗や、怪我をした経験があり、その時のモチベーションの保ち方や心の持ち方で悩んだ時期もあったことから、「前向きに考える」という右代選手の言葉はとても影響を与えた様子であった。質問では「日本選手権7連覇を逃した時の気持ちは？」と問われ、「負けた時本当に悔しかった。でも、勝ち続けてわかることもあれば負けて初めてわかることもあった。それは次に生かせる。」と前向きな発言をされていた。生徒達の後の感想にも、「うまくいかない時、逃げ出したくなったり諦めたりしたくなかったが、今回の話を聞いて、それではトップの選手にはなれないと感じた。自分たちも常に前を向いて頑張らねばならない」というコメントが多数挙げられた。生徒の意識の変化を感じ取れたとても充実した講演会となった。</p> <p>(3) 東京オリンピックへの興味と出場への意欲 右代選手は教員打ち合わせの中や生徒の前でも、今後の目標は過酷ではあるけれど、あまり知られていない十種競技を広めることであると話されていた。元日に放映されたTV番組にも出演され、メディアを通して十種競技の面白さ、すごさというものを紹介されていた。生徒達にとっては目の前で話をしてくれ、一緒にトレーニングを行ってくれた右代選手が出場を目指されている東京オリンピックに興味を持つのはもちろん、十種競技に対しても興味を抱き、現地観戦を希望するなど反響は大きかった。最後に右代選手は「西城陽高校は環境に恵まれている。また、様々なスポーツで活躍され、世界に進出している選手も多く輩出しているの、皆にも頑張ってもらいたい」と話され、自分たちも東京オリンピックという同じ舞台で戦いたいと真剣に考える生徒も出始めた。右代選手の講演会・実技指導は生徒達に好影響を与えるものとなった。</p> |
| <p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <p>(1) 講師選びと時期選びの工夫 本校はスポーツ総合専攻コースがあり、チャンピオンスポーツを目指すべく生徒達は入学し、日々切磋琢磨している。環境も整えていただき恵まれている。ただ、恵まれた環境が故、ハングリー精神や恵まれた環境のありがたさを感じる気持ちが少し薄らいでいるように感じていた。そのため、人柄も良く、常に向上心や感謝する心を大切にされている右代選手に講演を依頼した。また、試合期であれば常に目標がありモチベーションをキープしているが、鍛錬期に入る直前であればモチベーションが高い状態ではないと予想し、生徒達の意識高</p> |

| | |
|--------------|---|
| | 揚・モチベーションアップを図るため10月下旬という時期を選んだ。 |
| 8 主な課題等 | <p>(1) トップアスリートとの調整 どの学校でも共通することではあるが、学校の状況に合わせた講師選びと立案・準備・アスリートとの日程調整が難しい。</p> <p>(2) 学校行事などの活用 本校はスポーツ総合専攻の生徒対象の2時間連続の授業内で実施した。内容は大変有意義なものであるので、一部の生徒対象にせず、全校生徒対象で行えると良いのではないかと考える。</p> |
| 9 来年度以降の実施予定 | <p>(1) 学校全体での取り組み 次年度以降、一部の生徒に限らず、全校生徒が2020年東京オリンピックに目を向けていくための取り組みを行えるように進めていく予定である。</p> |

実技の様子①



実技の様子②



全体集合写真

